

報道関係 各位

広島経済大学
広 報 課

学生制作ドキュメンタリー作品が「地方の時代」映像祭 2016 に入賞

広島経済大学（学長 前川 功一）の徳永ゼミナールの学生が制作したドキュメンタリー作品が、「地方の時代」映像祭 2016 の「市民・学生・自治体部門」において入賞しました。

入賞した作品は、宮島で亡くなられた原爆死者たちを追うドキュメンタリー作品で、被爆 70 年にあたる今年の 7 月から撮影を開始し、1 年かけて完成させたものになります。

今年度の応募作品は合計で 325 作品と過去最高を記録。うち「市民・学生・自治体部門」に出品された 106 作品の中から受賞が決まった 9 作品のうち、本作品は地方大学として唯一の受賞となりました。下記の日程で行われる贈賞式にて、優秀賞と奨励賞のいずれであるかが発表されたのちに、表彰となります。

つきましては、以下のとおりお知らせしますので、ぜひ取材していただきますよう、よろしくお願いいたします。

記

<制作作品について>

- 【作品名】 「忘れられた魂 ～宮島の被爆死者たち～」
【時 間】 22 分
【制 作】 メディアビジネス学科 4 年 小林 俊介ほか 5 名
※詳細は別紙をご参照ください

<贈賞式日程について>

- 【日 程】 平成 28 年 11 月 12 日（土） 12 : 30～
【会 場】 関西大学千里山キャンパス（第三学舎ソシオ A V ホール／百周年記念会館）
【内 容】 ①オープニング／贈賞式
②記念講演
③グランプリ受賞作品上映会
④「地方の時代」映像祭シンポジウム
⑤レセプション・交流会

以 上

《受賞に関連して》

この作品制作にあたっては、徳永ゼミナールの6名の学生が、被爆70年にあたる昨年7月から撮影を開始。1年がかりで完成させました。その間、宮島取材だけでも延べ11回行き、埋もれた宮島の原爆被害を丹念に掘り起こしました。広島経済大学からの本コンクールへの出品は初めてでしたが、学生たちの努力が受賞という形に結びついたと考えています。

地方の時代映像祭コンクールには、近年、多くの大学が挑戦をしています。ただし、受賞する大学は法政大学、中央大学、武蔵大学、東京大学といった東京の大学や、立命館大学や関西大学といった関西の大学に集中しています。わずかに北海道の北星学園大学が地方大学として名を連ねるのみでした。その点においても、広島の地方大学である本学が受賞した意味は大きいと思われれます。

《制作意図》

宮島の原爆死者の記録です

原爆ドームと宮島。広島には二つの世界遺産があります。広島市の中心部からおよそ15km、広島湾に浮かぶ宮島は、美しい自然と神社仏閣が調和する人気の高い観光地です。一見、原爆とは無縁に見えるこの宮島ですが、原爆投下のその日から多くの被爆者が運び込まれました。島内のお寺に収容されましたがそのほとんどが亡くなりました。しかし詳しい調査も行われず、被爆から71年経った今日、この事実を知る人は稀です。誰が島に辿りつき、どんな思いで逝ったのか。どこにどう葬られたのか。学生たちはその実相を明らかにするためにお寺を訊ね、目撃者を捜し出しました。判ったことは、原爆は人が存在した記憶すら消し去ったという事実です。

《作品概要》

被爆70周年の2015年7月から、1年間かけて調査、取材、撮影を行いました。町の世話役の話から辿り、一人また一人と当時の証言者を掘り起こしました。宮島小学校の教員だった新田久子さんは、イワシのように焼かれて横たわる母子の姿を覚えている。虫の息の母親が赤ん坊の口に乳房を含ませていたと。小学3年生だった佐伯弘登さんは、木箱の隙間から亡くなった女性の黒髪がはみ出した光景を忘れることはできないと言います。このように亡くなられた宮島の被爆者の数は、一説には355人。調査によってさらにおよそ100人いたことがわかりました。しかし、はっきりとした人数や身元はわかっていません。わかっていることは、死者全てが宮島の対岸に運ばれたということです。そして山の中に埋められました。どこのだれが亡くなったのか。どんな夢を抱きどんな絶望の果てに亡くなったのか。そして正しくは何人が亡くなったのか。ただ一人を除いて、今は手がかりすらありません。ヒロシマ、71年目の現実です。

※お問い合わせ、ご取材の向きは、事前に以下までご一報くださいますよう、お願い申し上げます。

(記事の内容について) 広島経済大学 教授 徳永 博充 電話 082-1673 (研究室直通)

(取材の依頼について) 広島経済大学 広報課 平田・山本・住本 電話 082-871-1313